



# 共同通信



2009年12月18日 160(370号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 60  
『家族のねっこ』

12月に入り、津門川や幼稚園の大きなツリーに、街のイルミネーションが美しく輝いています。一年の終わりを迎え、あわただしい気分とクリスマス的心躍る楽しい気分の入り混じるこの季節が今年もやってきました。

我が家はそんな12月を8回西宮で過ごしてきました。そして今年が最後です。転勤の為、年末に引っ越すことになりました。こんなにさみしく、こんなに忙しい12月は初めてです。

共同通信の原稿依頼をいただいた時、私が？！と思いましたが、引っ越し準備に追われる毎日の中、共同で過ごした日々を思い返し、自分の

中で一旦気持ちの整理ができるかもと思い、書かせていただくことにしました。

西宮生活8年、共同生活6年、ほぼ幼稚園と共に歩んできました。現在4年生の長男、2年生の二男、さんぼ組の長女の3人がお世話になってきました。いわゆる転勤族なので、初めは長男が卒園できればいいな、と思っていました。希望通り長男、続いて次男も年長まで過ごすことができ、もしかしたら、いやきっとさんぼの長女も卒園できると信じていた！ところでついに転勤になりました。

もちろん自分もつらいのですが、性格の違う3人の子どもたちにどうやって伝えようとしばらく考えまし

た。結局悩んでも仕方ないので、3人同時に伝えました。次男と長女は意外にも嬉しそうで、新しい家はどんな所？おじいちゃん、おばあちゃんの近くに行ける！！と前向き。一方、長男は信じられない様子でサッカーは？沖縄キャンプは？心配事が次々あふれ出てきて、涙・涙・涙でした。

そんな長男のことで、公同でたくさん助けられてきました。卒園してから私が悩んでいる時も、順子先生に「あなたが一番子どものことをわかってあげているんだから、学校で何を言われても、いつも味方でいてあげなさい」と言われました。それまで周りの意見に振り回されて、自分がどうしたらいいか分からなくなっていたのが、その時から親としても楽になりました。私の中に“ねっこ”ができたようでした。ちょっと問題が起きても、そのねっこのおかげでいろんなことを乗り越えてきたように思います。私が変われば、子どもも変わるのか、子どもたちにも3人そ

れぞれのねっこが公同でできているのでは、と思っています。だから転勤しても私たち家族が公同で過ごした6年間があるから大丈夫です。

いつでも子どもたちと本気で向き合ってくれる園長先生、朝、門のところで顔を見ただけで「何があったの？」と気付いてくれる順子先生、子どもたちと思いきり遊んでくれる先生たち、いっぱい一緒に歩いたお友達、いっぱい一緒に笑ったり泣いたりしてくれたお母さんたち、お休みの日にも一生懸命なお父さんたち、本当にたくさんの方々に支えられて西宮での毎日を過ごしてきました。転勤が決まってから、そのことを改めて実感し、感謝の気持ちがあふれてきます。本当にありがとうございました。

公同でできたねっこを大切に、これからは家族のはっぱをたくさんつけて、たくましい家族の木を育てていこうと思います。

(加藤 亜紀子)

「ともだちと道でちょっと会って、立ち話しながら近所のおいしもの話を  
するって、それはこの世の幸世の中でもかなり上位に入るだろうと思う。  
約束はしない、あつちまで会うこともめったにない、でもしょっちゅう会える。  
またねと別れてまたすぐにはまた会う。電車も車もなかった時代はと  
もだちとみんなこう、おもひながらのさうなあと思ひ知てる人、こゝか会  
わぬし、だからこそ知てる人を大事にしたんじゃな、わいと思う。」

(吉本ばなな)

マルコによる福音書 13 章 24、25 節に描かれる自然の営み「日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち…」は、それぞれ日食、月食、流星と考えるのが自然です。そんな、太陽と月と星の“自然現象”を、ルカによる福音書は「日と月と星とに、しるしが現れるであろう」として、それが単に日食、月食、流星などであるはずなのに、何かの“しるし”(合図)であるかのように見えます(21 章 25 節)。それが何かの“しるし”であって、続いて“人の子”なるものが現れる時の人の子は、“何者でもない”と考えることの方が難しくなります。そういうお膳立てがあって、その後にはそのことに平伏する人の様子が描かれることにもなります「…身を起こし頭をもたげなさい。あなたがたの救いが近付いているのだから…」(同 21 章 28 節)。日食も月食も流星も、それだけで説明可能な自然現象ですが、それを何かの“しるし”と見れば、そのしるしが指し示して

いるのは、“あなたがたの救い”であるという、もう一つ別の説明も不可能ではなくなります。ルカによる福音書が選んだのは、そんな意味での自然の理解でした。マルコによる福音書は、太陽と月と星に起こったことを、ただそれだけのこととして描きます。そこに何かの“しるし”を読みとったりもしません。その事実だけを記述します。

自然の営みに、その事実だけを見るのと、そこに“しるし”を読みとったりするとの違いは何か。太陽と月と星に起こったことは、何かを知らせる“しるし”であるとして別の意味付けをし、更にそれがもう一つ別の意味を持つことになるとすれば、自然の営みを手掛かりにして“救い”が簡単に説明できてしまいます。そして解りやすいのです。マルコによる福音書は、そこに何のしるしも見ないし、意味付けもしないし、何か別の課題と結びつけるということもしません。このことは、28 節以下の“い 3

ちじくの木の際”においてもそのまま引き継がれます。「その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことが分かる」為に、特別に何かが必要である訳ではありません。せいぜい“ぼんやり”していると、それに気がつかないで見逃してしまうという程度なのです。

ルカによる福音書は、太陽と月と星の場合と同じように、すべての木を見て「はや芽を出せば」ただ夏の近いことを知るで止まらず、もう一つ別の、そしてそっちの方が肝心なのでしょうが、「神の国が近い」ことのしるしを見てしまいます。そのように木が芽吹くのを見て“神の国が近い”と悟ったりすることが出来るのですから、それはそれですごいことです。ですから、たとえば、「わたし(イエス)の言葉」(33節)は、あってもなくてもいい扱いになります。

マルコによる福音書は、いちじくの木の際には芽吹いているのに気付いたからと言って、それでもって“神の国が近い”ことを悟ったりしません。その時の、自分の存在を過小評価するということもしません。というか、足りないなりに生きてきた自分、そして自分にしかわからない生き方を生まれしてきた自分の言葉について、「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない」と、とりあえず宣言してみせます。それが比類のない偉大なる言葉である

からというのではなく、自分にしかない自分の生き方がきざんだ言葉であることが、この宣言になっているように読めます。たとえば、ルカによる福音書は、木々の芽吹きを見て、“神の国が近い”ことを悟れと言います。多分、そんな意味での想像力を備えている人の言葉なのだと思います。しかし、そうして神の国が定義されてしまう時の神の国は、少なからず稀少なものになってしまいます。マルコによる福音書のイエスは、そんな意味での神の国の定義をすることはありません「その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない。ただ父だけが知っておられる」(32節)。

(菅澤 邦明)

•;E•,Î,ç,Î,è•`

•@ 2 •A •i'N,à,NfšfXf}fX •E, ,È,½,Î~'a,ššî,Ô,±,Î<G•B, ^,â,Á  
 ,Ä,«,Û,µ,½•B

•@,±,Î^è"NSÔ,Â¼,½šî,Ñ•A "B,µ,Ý•A š'•A <è,µ,Ý,Î•V,ç,ššü,ß,Ä  
 E°,Â,ß'¼,µ,Û,•B •âfCfGfX•A , ,È,½,à•,,½,ç,Æ" ,¶,æ,□,É,±,□,µ  
 ,Ä•S,ð"•, ©, ^,è,½,Î,Â,µ,â,□,©•B šš½,à••,½, , ,É•A "û^û,Ý•Q,Æ,µ,Ä  
 ,±,Î•ç,É,â,Á,Ä,«,Ä•A •è,Î^□,ð•ó,-,Ä^ç,ç•A `½,-,Î•l•X,Æð,í,è  
 ,È, ^,ç•-• ,µ•A •,,½,ç,Æ" ,¶,æ,□,É•l•¶,ð•à,Û,è,½,Î,Â,µ,â,□,©•B

•@•,,½,ç,Î,»,□•M,¶,Ä,ç,Û,•B , ,È,½, ^•,,½,ç,Æ<□,É'n•ã,É'«,ð  
 ,Ä,-,Ä-ß,Ä,Ä," ,ç,è,½,±,Æ, ^•A šš½,æ,è,Î<~,ç,Ä, ,é,Æ•M,¶,Ä,ç,Û  
 ,•B

•@šX,É,ÍfCf<f~f1•[fVf†f", ^" ,è•A •Q,ç,à,½,ç,ÎššÎ° ,Æ•Î,ç•°, ^  
 ,ð,Ñ,ç,Ä,ç,Û,•B fNfšfXf}fX,Í, ,È,½, ^•¶,Û,è,½,±,Æ,ð•j,□"ú•A

•,,½,ç,Î~x,è,É,ç,é•l, ^•¶,Û,è,½,±,Æ,ð•j,□"ú,Ä,•B

•@,ç,ñ,È-¾,é,çE,æ,è,àš•, ©, çfCfGfX •EjLfšfXfg,Î^□, ^•A `S,Ä,Î

•l,ð•î,ñ,Ä,ç,é,±,Æ,ðšo, | ,Äšî,Ô"ú,Ä,•B

•@,ç,□,©•A ,»,Î•è,É,ç,éšF,Ä-L, ©, ÈfNfšfXf}fX,ðE} , | ,é,±,Æ, ^,Ä  
 ,«,Û,•,æ,□,É•B ,»,µ,Ä•A ,»,±,É•W, | ,È,ç•l,½,ç,Î^Ô,ß,Î^x,É<F,ç  
 , ^,Ä,-,¾, ^,ç•B

•i• •@•@•@

•@•@•@ •@ •@ •@ •@ •@•@•@•@i`â•½•@-L<I•j

## “ クリスマスのうたが きこえてくるよ ”

「リンリンなるよ～かわいいすずが～」「クリスマスのうたがきこえてくるよ～」と幼稚園のどの部屋からもクリスマスの歌声がきこえてくる季節に……。また、木々からはたくさんの葉が落ち、園庭も街もすっかり秋から冬へと移り変わりはじめました。

11月14日には、待ちに待った公同まつりが行われました！！朝はすこし雨が降ったのですが、すぐに青空が広がり心配していたにも関わらず、天候にも恵まれみんなの笑顔があふれる1日となりました。ぽっぽぐみの子どもたちと同じく公同まつりはじめての私は、「見るもの」「聞くもの」「感じるもの」すべてに驚き、感動でした。みんなでつくる公同まつり！！は、「そんなものま

で！？」と思うほどすべてが手作りお父さん・お母さんから、そして、子どもたちまでもじゅず玉に染め紙に～の公同幼稚園です。公同まつりにならぶ物そのひとつひとつには、作った方のあたたかく優しい思いがたくさんつまっていて……。そして、それを本当に嬉しそうに手取る子どもたち。自分で選び、自分の財布から本物のお金を出して～。

そこには、私が忘れかけていた心と心をつなぐ買い物がありました。

また、公同まつりにはたくさんの出会いが 引越した子どもたち、また卒園したたくさんの子どもたち～。1年目の私がなんでこんなに卒園した子どもたちを知っているのだろうか？とたまに不思議に思うのですが……。教会学校で出会ったり、弟や妹が幼稚園に通っているお兄ちゃん・お姉ちゃんだったり、土曜日に手伝いにきてくれていたり、ふらっと幼稚園に立ち寄ってくれたり～。そして、みんながごく自然に当たり前のように声をかけてくれる。そのことがとても嬉しく、またすごくありがたいことだなと思います。卒園しても行きたくなる幼稚園！！出会いを大切にする幼稚園！！そのことをあらためて感じさせられた1日でした。

運動会や公同まつりなど盛りだくさんだった11月。そこには、子どもたちのために心をよせてくださったたくさんの方との出会い。そしてなによりたくさんの方の支えがありました。出会った方、支えてくださった方、すべての方に心より感謝いたします。その感謝の気持ちを忘れず、これからの日々も過ごしていきますように……。

そしていよいよもうすぐクリスマス！！

点灯式では、西北の街がまた津門川がきれいなイルミネーションで飾られました。寒く暗い冬の夜に、たくさんのきれいな光が灯り・・・そのきれいな光は、街をまた、そこにいる人をまるで優しく包み込んでくれているようでした。

歌やアドベントカレンダーなどクリスマスまでの日々も楽しんでいる子どもたち。これからも、そんな毎日が、子どもたちの笑顔が守られますように・・・。

(池ヶ谷里沙)

## すずや便り

早いもので12月ですね。我が家の実家は主人：香川と、私：千葉なので帰省の時期には遠距離の移動方法をいつも考えます。子供の頃は両親の実家が熊本だったので夏休みはよくブルートレインで帰省していました。「はやぶさ」や「富士」「みずほ」。「みずほ」は3段寝台だったのでゆとりのある「はやぶさ」がお気に入りでした。当時は食堂車もあったので非日常を満喫できました。今は見ないですね、食堂車。場所が変わると気晴らしになってよかったのです。さて結婚して子どもが小さい頃の移動手段は飛行機。なにせ早いし、おもちゃやジュースがもらえます。しかし3歳過ぎると料金がかかるのが難点。ちょ

うどその頃西宮在住となったので、香川へは車となりました。千葉(東京)へは2度ほど寝台急行「銀河」を使用しました。何十年ぶりの寝台列車に一気に子ども時代に戻ったようでした。これらの列車はすべて廃止になってしまいましたね。ニュースを見たときはとても寂しい思いでした。さて埼玉在住となってからは西宮&香川へどのように行くか、いろいろ試してみました。\*西宮編\*「夜行バス」本当に安いのですが、アラフォーには負担が大きすぎです。往復使ったときは翌日起き上がれませんでした。若い人向き!「飛行機」超割など安い運賃もあるのですが、羽田までの運賃が意外と高い!東京は広いで

す。子どもの一人旅には安全なのでお勧めです。\*香川編\*東京の有明から出ている東九フェリー(東京~九州)で徳島、そこから車で行きましたが高速1000円が始まったばかりのGWだったせいかものすごい渋滞!帰りは車でしたが長野で一泊入れる楽ちんスケジュールにしている正解でした。フェリーはのんびりしていて楽しめました。\*共通\*「新幹線ホテル付パック」旅行会社のパックです。ネットが安いという先入観がありましたが、意外とお店独自のキャンペーンをやっていて掘り出しツアーがあったりします。今回1泊ホテルをつけると単純往復よりも安くなることを発見しました。宿泊代まで入っているのにすごい!御存知の方も多いでしょうか。大阪泊ツアーを

探す折に、香川泊レンタカー付プランも探してみたらこれも激安が。しかも往路は「サンライズ瀬戸」利用可能です。寝台列車は人気があるので取れない可能性のほうが高いそうですが、どうでしょう?結果を待っていたら締切りを過ぎてしまうのでご想像にお任せします。それでは皆さま、良いお年をお迎えください。

(富家 香麻里)

## グアテマラ便り

こんにちば。もう、12月。アドベントも始まりですよ。こちらもカトリックの国ですから、それは盛大、、、だと思えます。去年は、12月初めに帰国したので、今年が初めてのクリスマスです!いつも立ち寄る雑貨屋さんも、オーナメントがいっぱいで、とてもかわいいです。これはカトリックの習慣かと思うのですが、(違ったらごめんなさい)クリスマスといえばベレン。聖家族像を飾ります。そして、1月に、3賢人が到着す

るまでがクリスマスなので、そこまでお人形は飾られています。以前聞いたのですが、1月になってから賢人たちの人形を増やすのだとか。。。スペインで見たときは、もちろん「普通」でした。でも、こちらで見ると・・・肌の色が褐色のお人形や、こちらの民族衣装風だったり、ちょっと「おもしろい」のですね。古くスペインがこの地に侵攻し、カトリックを強制布教したときにもイエス像の肌は褐色、黒いイエスは



エキスプーラスという聖地にさえなりました。土着宗教や、肌の色などうまく取り入れて布教されたのです。一方、メキシコシティのテンプロマヨールという、アステカの遺跡の上には現国家宮殿があるように、各地でマヤの重要建造物が破壊、新築されてきました。当時の書物もほとんどが焼却され、マヤの文化を伝える機会さえ奪われたとされます。そんななか、やはりマヤの祈祷所を壊して立てられた、とある教会から、マヤの聖典「ポポル・ブフ」が見つかります。焼かれないように、マヤ語からラテン語に書き直されていたそうです。自分たちの宗教文化を、教会という形を受け入れつつ（受け入れたフリをしつつ？）残そうとした、マヤ人たち。それは教会の回廊がマヤ・アーチという逆V字型であったり、柱のモチーフはブドウなのに、

ジャガーの飾られた教会の主扉だったり。。。。

スペインが侵攻してから、500年ほど経った今も、カトリックとマヤ宗教が入り混じった教会は多く見られます。教会内部の床にろうそくが灯され、松葉が敷き詰められたりしています。「おもしろい」というコトバは適切ではないかもしれませんが、生きる人々のたくましさを見る気がしませんか。

（横山 佳代子）

## みかん便り

12月になりました。もうすぐクリスマスです。クリスマスは暇です。なので教会に顔出します。別に淋しいわけではありません。クリスマスのイベントはイブイブの23日にちゃんと色々済ませます（笑）はい イブは幼馴染と久々に会えるチャンスなので今から楽しみです。

11月の終わりに、えひめ国際祭りに参加してきました。愛媛県松山市

に住む他国の方との交流のフリーマーケットイベントです。売り上げはネパールへ全額寄付することになりました。初めて自分らでやりきれた国際協力でした。7月からの準備期間にいろいろと問題も計画変更もありましたが、無事終われてよかったです。

ところで、“Playing For Change”という音楽グループを知っています 9

か？数年前に1度話題になって、現在は大和証券のCMで歌を歌っているグループです。アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、世界中の人が集まって、歌で世界平和を唱えています。『We Are The World』の“USA for Africa”に似たものですね。CMではベン・E.キングの『STAND BY ME』や、ボブ・マリーの『ONE LOVE』、『WAR/NO MORE TROUBLE』など、世界中の名曲をアレンジして歌っています。ネットで調べて興味を持ったのでホームページを見てみると、全て英語で撃沈...翻訳に1時間くらいかかりました。

以下翻訳

“Playing For Change”は音楽を通して世界と平和でつなぎ、もたらすために作られたマルチメディアの運動です。このプロジェクトについてのアイデアは、音楽には境界を壊して、人々の間の距離を克服する力があるという確信のもとに。人々が地理的な違い、政治的な違い、経済的な違い、宗教的な違いは少しも重要ではなく、音楽には1人の人間としてとして我々を越え、結びつける力があります。そして、この真実を我々の心に留めて、我々はそれを世界と共有しようと試みました。

このプロジェクトの収益の一部は、非営利団体である「Playing For Change 基金」を通じて、インドやネ

提供などの直接的な援助のほかに、南アフリカでの音楽スクールやアートスクールの設立、そこにおける子どもたちへの恒常的な指導にも役立てられ、音楽や芸術の輪を世界に広げることにも貢献している。

今回僕たちが行った国際協力は、大学や小学校に協力してもらいフリーマーケットで売る物を集め、売り上げを寄付するという、言葉で書くと案外簡単にまとめられることでした。でも、こんな小さなプロジェクトでもたくさんの人との打ち合わせや、計画の変更など問題も山積みで遅れも生じた結果でした。愛媛県の小さなイベントでこれだけ大変なのに、“Playing For Change”の活動は想像できないくらいの綿密な打ち合わせと失敗を経験してるんやなあって思いました。

たまに、『We Are The World』はアメリカの偽善の曲やっていう人がいます。でも、偽善でもあれだけのビッグプロジェクトをやり遂げることができる人はあまりいません。偽善でもやり遂げることが大事なのだと思います。

今月は国際協力の難しさと、やった後の達成感をやっと味わえることができた月でした。12月はどんな月になるか、今から楽しみです。

(河村 高志)



## 教会学校から

### 《11月の活動報告》

11月1日(日)

沖縄のスパム&青森のリンゴサンドイッチを食べる  
オリーブ大収穫

11月8日(日)

“ゆびハブ”作り

11月15日(日)

射的大会・幼児祝福礼拝

11月22日(日)

高松公園でドッチビー大会

11月29日(日)

クリスマスグッズ作りNo.1  
クリスマス映画鑑賞会

### 《12月の活動予定》

12月6日(日)

クリスマスグッズ作りNo.2  
青森のリンゴでチョコフォンデュ  
とリンゴ飴を作って食べる。

12月13日(日)

クリスマスグッズを作るNo.3  
クリーン大作戦

12月20日(日)

クリスマス礼拝&祝会

12月20日は教会学校のクリスマス会です。特別の「クッキーツリー」の前でクリスマスの歌と讃美歌を歌って礼拝をし、お楽しみのプレゼント交換を行います。プレゼントはメッセージを一緒につけて送ります。

12月27日(日)と1月3日(日)は冬休みです。教会学校は2010年1月10日(日)の「新年カルタ大会」で始まります。

2009年12月 あんなこと こんなこと...

# 大切な贈り物・津門川 8 7

## 「金魚飼いたい」

夏の神社のお祭りで、袋いっぱい  
金魚を手にして息子が言いました。  
ギョッとしつつも、もう二年生だし  
自分で世話をするという約束で水槽を  
購入。しかし10匹以上もいた金魚は、  
一週間ほどで全滅…。息子はもちろ  
ん、空っぽになってしまったピカピカ  
の水槽もなんだか寂しそうに見えまし  
た。

数日が経ち、縁あって幼稚園からメ  
ダカを8匹譲ってもらうことに。普段  
は消極的な彼が、自ら幼稚園に  
電話をかけている姿を見て、これは本  
気だなと私たち親もうれしくなりまし  
た。夏休み中とあって、じっくりメダ  
カを観察する時間がありました。おじ  
いちゃんやおばあちゃんに大げさなく  
らい褒められながら、虫メガネを駆使  
して辛抱強くメダカと向き合う息子。

半月ほどして、卵からメダカが  
誕生する場面に初めて立ち会うこと  
ができました。こんなに小さな命で  
も、その誕生の瞬間はとても感動  
的で、早朝のベランダで家族そろっ  
てキャーキャー興奮したのを覚えて  
います。

あれから5ヶ月。メダカの転入転  
出、そして共食いや病死もあったけ  
れど、我が家には今13匹のメダカが  
元気に暮らしています。そしてこの  
一つの体験で、なんだか息子が一回  
り成長したように見えました。「自  
分で世話をする」という約束はたび  
たび破られてしまう(?!)けれど、こ  
れからも命の存在とその大切さに  
少しでも気づいてくれたらと思っ  
ています。

## つとがわ 編集後記

父が亡くなって、父が元教師だったことや田舎の政治家をしている兄のこともあって、葬儀はそれはそれは“盛大”でした。亡くなった母の時もそんな具合だったのですが、ちょっとだけ工夫させてもらいました。母の時は、姉（母の死後2年経って2006年に亡くなってしまった）と計画して、“祭壇”に並べる花は田舎の葬式では考えられない、明るいものをたっぷりし、そのデザインも姉が担当し並べ方も指示していました。そして、会葬した人たちへの挨拶文も全く自前のものにしました。父の葬式では、開始に合わせて9月の教会学校の集まりの為に作っていた“絵本”「おばあちゃん、おおきい おじいちゃんは どうして おしゃべりしないの」を映像にし、葬儀会場のスクリーンに映し出し朗読してもらいました。物語は、施設で寝たきりの曾祖父を、曾孫とおじいちゃんおばあちゃんが電車に乗って訪ねて行くというものです。言いたいのは、家族としてつながり続ける時に、普通の人の普通の姿が垣間見られるということなのですが、そのことを少なからず伝えられる物語の絵本になっていたと思っています。父の葬儀のそんな映像が良かったという人もいたとの事です。

( K )

先日、幼稚園にたくさんのキウイを届けていただいたので、子ども達とそのままだいた残りを、ジャムにしても美味しいと教えていただいたのでジャムにしました。子ども達とはクラッカーに乗せて味わったのですが、その美味しい事！しかも作ってみるとジャムって簡単！砂糖とレモン汁を入れてグツグツ～するだけ。初体験のキウイジャムに感激しました。

子ども達と一緒にいろんな体験を楽しませていただいている事に感謝しつつ、スーパー等でキウイを見かけると、ジャム ジャム と思ってしまう今日この頃です。

( I )

私のかばんの中に常に入っているもの。ハンカチ、ティッシュ、サイフといろいろありますが、1番の必需品は「あめちゃん」です。まだまだ大阪のおばちゃんではありませんが～。高校時代に缶の「サクマドロップ」にはまったのが多分始まりだと思います。最近新しいあめちゃんがいっぱい出ていて、選ぶのも一苦労ですが、おいしい一品と出会えた時はとても嬉しいのです この頃はおいしいのを選ぶのも上手くなってきたり～

冬は特に手放せないあめちゃん。まだまだ新しいものを発掘したいな～と思います

( Y )

切り紙にはまり（最近また本が1冊増えました）、この頃マスキングテープにもはまり出しています。無地の封筒に家の壁に張ってみたりいろんなところにペタペタ～お店に並んであるのを見ると可愛くて、ついつい買ってしまいます。20本近くになって...どんな風に収納しようか悩んでいます。もっともっと色んなところにペタペタ飾りたいのですがなかなか思い浮かばず～マスキングテープにはまっている方！どんな風に使われているのかぜひ！教えていただけたら嬉しいです

（年賀状にペタペタしてみようかな～）

( N )

義父を永久の旅路に見送るために訪れた田舎の家で、茶の間の棚の中の茶封筒、「順子からの手紙」と達者な字で書いてあるのを見つけた。先年亡くなった義姉のと一緒に入れてあった。律儀な人だった。

今年も年賀状のころを迎えた。年賀状はお決まりのものでなく毎年工夫して出してきた。10年前ごろにふと思いたち、家族の歴史としてのそれらをアルバムにしておこうと整理したが見つからない年があった。2004年亡くなった義母にそのことを言う「おじいさんがちゃんとおいてるわ」と言って送ってくれたことがあった。茶封筒に入れられた手紙を見てそのことを思い出した。高齢ということもあり実の息子曰くほとんど誰も泣かない葬儀でひとり泣いていたわたし、思い出がいっぱいありすぎる。賄いだけしておけと言われて腹を立てたこともあったけれど、晩年はごはんを時間や内容など要望通りに整えるわたしにはあまり頭が上がらないところも見られた。いつごろから始まったのだろう喪中欠礼のはがき、今年もそれが毎日のように届く。この型どおりの1枚のはがきほど腹の立つものはない。一方的に欠礼などと言わずに先に逝かれた方との素敵な時間を語ってほしい。はがきを受け取る側に亡くなった方に心を寄せる機会を与えてほしい。我が家の用意していた今年の年賀はがきはあちこちに引き取っていただいて2010年の年のはじめの挨拶を新たに準備した。

( J )